

科目名	デザインアイテム論 [クラフト] (卒業必修)		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 後期	単位数	2
担当教員	井波 純		
内容および計画	<p>漆工芸は、様々な工芸素材の中でも、歴史が深く、完成までのプロセスも複雑で多岐にわたる。前期のプロセス論に引き続き漆の基本工程についてさらに理解を深める。</p> <p>漆碗の制作を通し、生活デザインとしての器の形状と漆の持つ肌合い等について使用した上での感覚を確認する事でより深く漆器について理解を深める。</p> <p>漆工芸の装飾として最も古い歴史を持つ研ぎ出し蒔絵について、その技法を理解するとともに実制作を通し体得する。日本はもとよりアジア各地でヨーロッパで生まれた漆工品についても授業を進める中で解説し、漆工芸の意味をより深く考察する。卒業研究ゼミ I と並行する授業として捉え、漆工芸に対しより深い理解を促す。</p>		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (木地轆轤) 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) 		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) ・ 漆造形制作の基礎 (造形) 布着せ工程について 		
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆装飾の基本 (研ぎ出し蒔絵) 工程と技法について ・ 漆碗の制作 (下地・塗り工程) ・ 様々な漆芸表現について 		

13	<ul style="list-style-type: none"> ・漆装飾の基本（研ぎ出し蒔絵） 工程と技法について ・漆碗の制作（下地・塗り工程） ・様々な漆芸表現について
14	<ul style="list-style-type: none"> ・漆装飾の基本（研ぎ出し蒔絵） 工程と技法について ・漆碗の制作（下地・塗り工程） ・様々な漆芸表現について
15	<ul style="list-style-type: none"> ・漆装飾の基本（研ぎ出し蒔絵） 工程と技法について ・漆碗の制作（下地・塗り工程） ・様々な漆芸表現について 講評

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

使用しない

参考書	必要に応じて資料を使用、配付する
-----	------------------

成績評価

評価方法	割合(%)
受講姿勢（技法や制作に関するノート作成等確認します）	20
授業内容の理解と作業に対する積極性	40
提出課題	40

学習到達目標	自身のデザインした塗り碗を使用することにより、形態と使い心地の関係性や、器に関する理解を深め、今後のデザインや制作に活かすことができる。
先修条件	
実務経験	実務経験あり：素地制作から漆塗り、漆芸装飾に至るまで石川県輪島市、および東京都において実務経験を積み、作品制作を中心に活動してきた経歴も活かしながら、シラバスに沿った授業において理解を深めより完成度の高い研究作品の制作につなげていく。
その他	この授業は、卒業研究Ⅰとも関連しながら進めます。